

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 環境センター

所管課 水・大気環境課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	猪苗代湖を始めとする豊かな水環境などの保全	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖水質モニタリング調査事業	猪苗代湖流域の詳細な水質調査を実施し、猪苗代湖のpH等成分及び組成の経年変化を把握することにより、猪苗代湖流域の水質保全対策に資することを目的とする。	猪苗代湖及び主要流入河川の水質のモニタリング調査や猪苗代湖内の水温・電気伝導率の連続測定調査を実施する。	H25	H26	B	水質調査により経年的に蓄積されたデータは大変貴重である。これまでの調査結果を解析・評価することによりpH上昇等メカニズム解明に必要な調査方法を検討し、戦略的に調査をすることが必要である。	猪苗代湖における、PHの推移をはじめとした、長年にわたる大量のデータが蓄積されていることに、大きな意義がある。貴重なデータの再解析や、大腸菌群とのデータを合わせての総合的な解析などによって、考察が深められることが望まれる。(加藤)

試験研究機関名 衛生研究所

所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	感染症対策及び食中毒	腸管系ウイルス不顕性感染リスク分析	腸管系ウイルスの感染に不顕性感染が関与している可能性が示唆されているが、その詳細は不明である。不顕性感染率の算定や分子疫学的解析から地域流行や食中毒、集団感染に対するリスク分析を行うことを目的とする。	1. 健常者から採取した便における腸管系ウイルスの検索(リアルタイムPCRを用いた高感度検出法) 2. 検出されたウイルスの分子疫学的解析(地域流行との関連性)	H25	H27	A	県内においてもノロウイルス等による集団感染事例が多いことから、不顕性感染の実態とウイルス消失期間を解明していくことは行政指導や感染症対策に有効な手段となるため、調査研究を強化していく必要がある。	多様な感染形態を示す腸管系ウイルスの不顕性感染を網羅的に検証したことにより、地域での総合的な予防対策につなげられることに、大きな意義がある。(加藤)

試験研究機関名 ハイテクプラザ

所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
3	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	未利用農産物の機能性成分を活かした加工技術の開発	普段廃棄される未利用農産物における機能性成分を把握し、機能性成分を維持した発酵調味料等を開発することで、県内食品加工業者に提案すると共に、健康関連産業への展開を目指す。	未利用農産物等(そば末粉、アスパラガス切下、製あん粕、トマト摘果果実、製あん時廃糖蜜)の機能性成分を解明、機能性成分を保持した加工食品を開発し、県内食品企業への技術移転により、3年後の廃棄量8割低減を目指す。	H25	H27	B	機能性成分の測定や機能性成分を活かした加工食品の開発が概ね計画どおりに進められている。今後は加工方法の改善や技術移転に努めることで、商品化に結びつくことが期待されることから、継続すべきである。	平成26年度試験研究評価資料(平成25年度試験研究報告書・校正前)等の詳しい資料をつけて頂きありがとうございます。内容はよくわかりましたが、統計等の記載がなく、本研究の考察の妥当性を判断しづらかったです。得られたデータについては、平均と標準偏差、N数を示し、統計処理の方法を明記し、統計処理の結果を記載ください。(仲川)

試験研究(中間)評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
4	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	地域特産食用きのこの栽培技術の開発と優良品種選抜	中山間地域の振興に寄与するため、自然栽培用品種を選抜し、地域特産品となり得る食用きのこの栽培技術の開発を図るとともに、これまで開発した栽培施設を必要としない栽培技術を応用した栽培方法を開発する。	地域特産品目として期待される、一般には栽培されていない食用きのこ（キクラゲ、ホンシメジ等）の栽培技術を開発する。また、既存の栽培種についても野生菌株等の収集を行い、地域に適した自然栽培用品種の選抜を行う。	H22	H26	B	ホンシメジは(日向土+バーミキュライト+押麦)を培地基材とする野外覆土栽培法をほぼ確立するとともに、ナメコ品種選抜は、二次選抜で5系統まで絞り込んだことを踏まえ、計画通り実施されるべきである。	きのこ栽培は林業収入の半分を占め重要であるが、単価が低迷している。このため、低コスト、高品質、付加価値が求められている。地域に適した栽培技術の開発、自然栽培用品種の選抜は、これらの要望に応えたものと言える。本研究では、自然栽培に適した品種を選抜し、ホンシメジでは中粒の鹿沼土による覆土技術を開発し、目的を達成した。(根田)

試験研究機関名 内水面水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
5	生産力と経営力の強化による自給率と所得の向上	農林水産資源を活用した地域産業の6次化の推進	内水面資源の増殖技術開発試験	経済的に負担が少なく、生物的に効率的で、生態系を有効に活用しつつこれと融合した増殖手法を開発する。これにより、内水面漁業協同組合の経営の向上、活動の活性化ひいては内水面漁業の振興に寄与する。	1 アユ、イワナ等の人工産卵床の造成技術開発 2 河川耕耘による河川の生産力向上技術開発指導 3 ワカサギ等の増殖技術の導入・改良	H23	H27	B	手法論はおおむね妥当ではあるが、東京電力福島第一原子力発電所の事故等による採捕自粛も加味した調査計画とすべきである。	困難な状況での研究であったと存じますが、得られたデータについては、平均と標準偏差、N数を示し、統計処理の方法を明記し、統計処理の結果を記載ください。(仲川)